

F 筑紫女学園報 Report

76

2012 February

2012年(平成24年)2月1日



特集

「筑女の教育」最前線レポート②

筑紫女学園 ならでは の 「自律のこころ」を育む教育

学園だより

学園総合／創部以来、最高位の成績を収めた陸上部 ほか
大学・短期大学部／職業に対する意識を高める「工場見学ツアー」 ほか
高校&中学／中学音楽部、「全日本合唱コンクール全国大会」で2年連続銀賞受賞 ほか
幼稚園／福岡市内の幼稚園で唯一の保健室で元気に身体測定 ほか

その教育 しなやかで、ゆるぎない。
学校 法人 筑紫女学園

<http://www.chikushi.ac.jp>

筑紫女学園

検索



Special Issue
特集

「筑女の教育」最前線レポート②

幼稚園から大学院まで、筑女の「人間教育」に通底するものとは？

筑紫女学園 ならでは の 「自律のこころ」を育む教育

「浄土真宗の教えにもとづく人間教育」を建学の精神とする筑紫女学園では、校訓に「自律・和平・感恩」を掲げています。

中でも「自律」は人間教育の基礎となるもの。そこで今回は、幼稚園から大学院まで全学共通に流れる

「自律のこころ」を育む取り組みについて明らかにします。

CASE-1
幼稚園

ここから始まる人間教育

小さな成長にも気づいて褒めることで
自信につながる、自ら考えて動く力に

教員との信頼関係が

「二歩」を踏み出す
きっかけに

自ら判断し、自ら行動していく姿です。

そういう意味では、本学園

が校訓の最初に掲げる「自律」

とは、他から離れて独り立ち

するというニュアンスの「自立」

とは、趣を異にします。

「入園すると、それまでの母

親と1対1の環境から、初め

て集団の中の一人として生活



▲年長の園児が組み上げた「カブラ」。この小さな積木の組み合わせは無限大。子どもの自由な発想で、日々いろいろな作品が生み出されています。



▲毎年2月に開催される「竹馬乗り発表会」。自分で作った竹馬を、自分の力で乗れるようになります。

「自由教育」ではなく
子どもの気持ちに
寄り添う「自律教育」

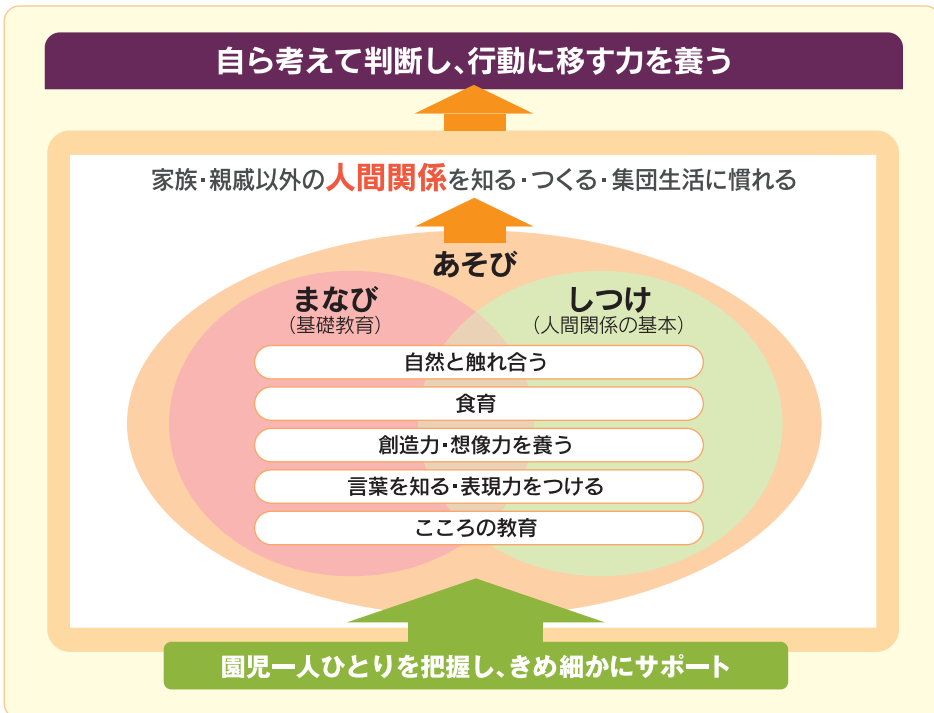
こうした小さな成長をさらに伸ばすために、筑女の幼稚園には分刻みの時間割はありません。

「何かに熱中している時は、子どもにとって学び、成長している時。だから充分に遊んで満足するまで自由にさせています。ですが、ただ自由にさせているのではなく、人間関係の基本や教育的要素を、子ども一人ひとりに流れている時間の中で一番良い時にきちんと組み込みながら、自ら興味を持って動く姿勢を大切にしています。」

そのうえで、子どもが伸びた瞬間を見逃さず、必ず褒めるのが、教員共通のスタンス。

「苦手だった野菜をほんの一口食べるのができたり、お友だちに気持ちを伝えられるようになったり、年下の子のお世話をしてくれたりと、変化は子どもによってそれぞれです」

◆幼稚園の「自律のこころ」を育む教育



が、褒めてあげると自信がついて、自ら考え、判断し、行動するようになっていくんです」



▲「遊びの中に学びの要素を盛り込みながら、園児たちが熱中するポイントを探っています」と語る原田理恵教諭。

想いで登園する子どもたちの瞳はキラキラと輝いています。

教職員が全力でサポート 自分を知り、広い視野から 将来と向き合う環境で、輝く未来を…

さまざまな取り組みで 興味・関心・意欲を喚起

生 かされている自分を知らず、その存在に気づきながら「自らを律していく」ために、

中学からさまざまな取り組みを行っています。

中学1・2年次に行う、クラスやグループ単位での発表会もその一つ。毎年、「平和」や「環境」といったテーマを設定し、それぞれにクラスメイトたち

と協力しながら研究発表を行い、国内外を問わず、さまざまな分野に視野を広げていきます。

中学3年次には、生徒の最も身近な存在である保護者やOGを講師として招いて、「職業講演会」を実施します。生徒自らがそれぞれに職業観を深め、「憧れ」が具体性を持って

深化し、高校での大学や学部・学科の研究につながっていくのが筑女流です。

「広い視野で他を知ることから、自分を知る。それが自律」、そして「自学」につながっています。勉学には興味・関心・意欲を喚起する環境づくりが何より大切。中学では中高一貫校としてのメリットを活用し、今年度は2年次に、最も身近な先輩である本校の高校生に自らの進路について尋ねる機会を設けました。また、高校では、毎年20校を超える大学などから講師をお招きして模擬授業「追夢(ツイム)講座」を実施し、自らの進路を具体的に考える貴重な機会にしています(菅原盛之 中学・高校副校長/以下同)

個性を 発揮しながら学び 社会に有為な人間へ

そ うした言葉に違わず、放課後になると職員室前の質問コーナーでは、生徒と教師の熱心なやり取りがあちこちに。「見放さない」「見逃さない」「見落さない」という姿勢で、驍の面も含め、連日の指導が続いています。

「筑女では習熟度別のクラス編成を行っています。ですが、これは生徒を序列化するためではありません。一人ひとりに合った教育環境で、可能性を最大限に伸ばすことが目的です」

この仕組みもまた、生徒たちにとっては、モチベーション維持につながっているようです。

また、多くの学校を上回る220日以上の授業日数※により、授業だけでなく、多彩な行事とおして生徒のこころを育む姿勢も筑女ならではの、一人ひとりが在学中に、何らかの場面で個性を発揮できる環境が整備されています。

「104年の歴史は単なる伝統ではありません。女子のことを知る本校だからこそ、宗教・進路・女子教育を3つの柱にして作るさまざまなキッカケを生徒たちは吸収し、自らのものにしてきています」

世界を知り、自分を知る。そして、社会に有為な「自律のこころ」を持った女性へ。その願いこそ、筑女の人間教育の原動力に他なりません。

※標準的には200日以下

「104年の歴史は単なる伝統ではありません。女子のことを知る本校だからこそ、宗教・進路・女子教育を3つの柱にして作るさまざまなキッカケを生徒たちは吸収し、自らのものにしてきています」

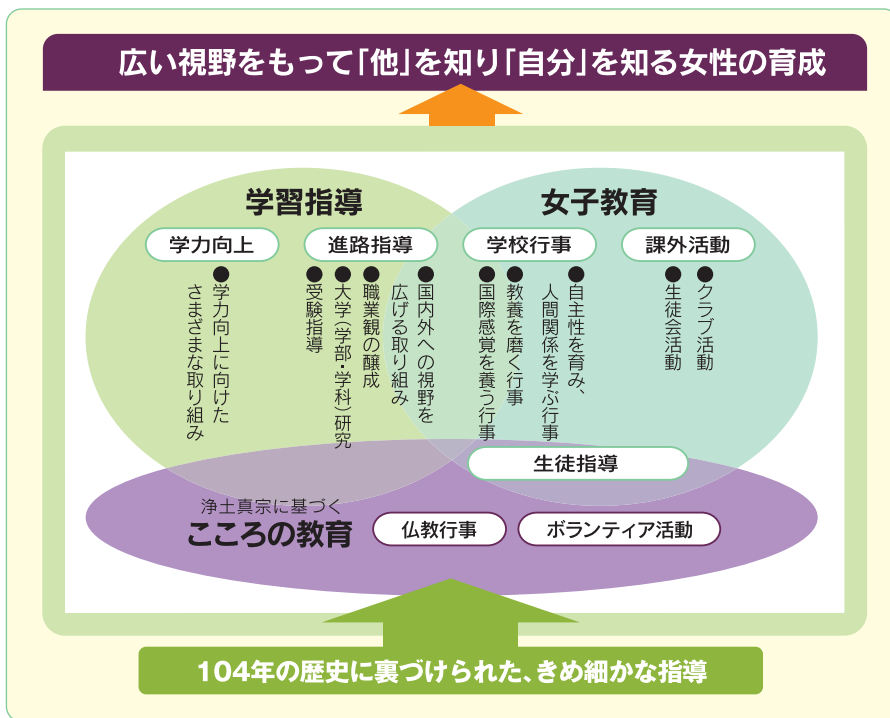


▲「生徒一人ひとりが本当の意味で『自律のこころ』を育むよう、さまざまな環境整備や教職員同士の情報交換などに取り組んでいます」と菅原盛之副校長。



▲「憧れ」を具体的な目標にするための一助として毎年開催される「追夢(ツイム)講座」(本誌11ページでも詳しく紹介)。

◆中学・高校の「自律のこころ」を育む教育



CASE-3
短期大学部・大学・大学院

社会で自律できる人材養成を目指して
教職員が一体となつて
学生生活のすべてを支援

AP・CP・DPを
包括する本学独自の
ポリシー「SP」

学 生の学力と学習意欲に
差異が生じていること
に鑑み、平成20年12月の中央
教育審議会答申では、「入学者
受入れの方針（AP）」「教育課
程編成・実施の方針（CP）」「学



▲学生スタッフの取り組み(写真)やMSGなど、筑女では答申以前から個々に取り組んできたもの。そうした意味でも、筑女の教育は時代の要請に充分応えているといえます。

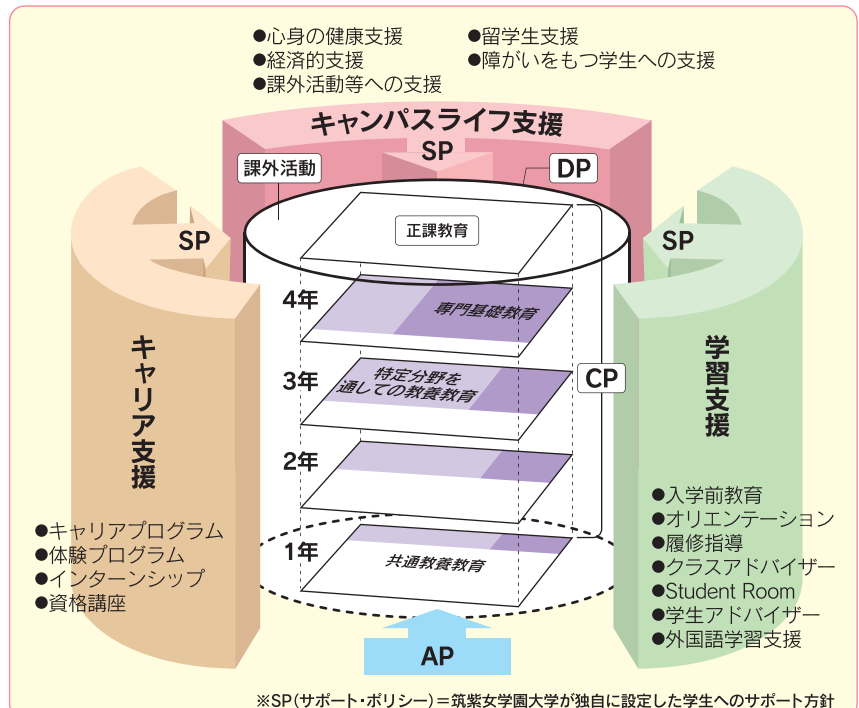
位授与の方針（DP）」という
3つのポリシーを有機的に結
合させることで、「学士力」を
保証しようとする方針が打ち
出されました。さらに今年度
からは大学設置基準が改正さ
れ「学生の社会的・職業的自立」
を実現するための体制作りも
求められています。

これらを受け、各大学では「キ
ャリア教育のあり方について、
それぞれに特色ある取り組み
を行う中、本学は以前から独
自の道を歩み始めています。
「3つのポリシー」の限界を認
識し、平成20年度から本学が独
自に定めた第4のポリシーとし
て「総合的教育・学習支援の
方針（SP）/サポート・ポリシ
ー」を掲げ、その具現化を図つ
ています。それは、「学士力」の
養成には正課内外にとらわれ
ない、教職員が一体となった包
括的な取り組みが必要である
と考えたからです」（假屋幸康
大学短大部事務長/以下同）
そうした方針に基づき、本
学ではキャンパスにおける学
生支援のすべてが「自ら考え」
「自ら判断し」「自ら行動する」、
自律への気づきの場であると
とらえ、すべての教職員が学
生の学士力向上に関わる体制
作りを進めています。

「しかし、これらの
活動はまだそれぞ
れの部署単位によ
る取り組みとなつ
ており、今後は4つ
のポリシーをすべ
ての教職員が共有し、
学生支援の全体像
をとらえた上で活
動を推進するよう
にしていきたいと
思っています」
それぞれにアプ
ローチの仕方は違
いますが、いずれも
教育の一環と捉え
ての活動であるこ
との意義を学生に

動を促す取り組みを進めてき
ました。
たとえば、オープンキャン
パスの際に大学の紹介役とし
て活躍する学生スタッフの起
用や新入生オリエンテーショ
ンの活性化を目指すクラブ紹
介のイベント化、また、視聴覚
に障がいを持つ学生へのノー
トテイクボランティア「MSG」
への支援などは、それら取り
組みのひとつです。今年度は
新たに「学生チャレンジプロ
ジェクト」として、学生が主体
となつて、キャンパ
ス環境や地域・社会
貢献について企画、
立案し、実行するプ
ログラムもスタート
しました。

◆大学・短期大学部の学士課程教育全体の概念図



伝え、事前研修を行うなど、学
生の「学士力」の養成に繋げて
います。
「自ら行動し、やり遂げた
という経験や達成感は、必ず「自
律」につながります。社会人とし
て、また家庭人とし
て、卒業後も「筑女」
で身につけたこと
を実践してくれる
よう、願っています」
初年次教育の充
実や、全学的な意識
のさらなる共有な



▲「本学を卒業したら終わりではなく、
学生にとって生涯にわたり役立つこと
は何かを考えながら、学生サポートに
取り組んでいます」と假屋幸康事務長。

ど、この先解決すべき課題は
あるものの、こうした体制作
りを今後も強化していくこと
で、「自律した筑女生による」社
会的・職業的自立の実現に向
けた支援を行っていきます。

学園総合

Contents

- 高校／創立以来、最高位の成績を収めた陸上部
- 中学・高校／親鸞聖人750回大遠忌法要を挙行
- 学園／「福岡県子育て応援宣言企業」などに登録
- 大学・短期大学部／筑女フィル、今年度もアクロス福岡で公演

高校

創部以来、最高位の成績を収めた陸上部の2011年

インターハイ総合3位、 国体・新人戦での快進撃

今年度は有望な新入生が8名入部。『愚公移山』難行といえる大きな目標も怠らず努力すれば成就するをモットーに、そして筑女の伝統である「チームの結束力」を武器に、「全国高校駅伝競走大会での全国制覇」を目指し、総員21名でスタートを切りました。

その皮切りとなった8月のインターハイ(岩手)では、中長距離ブロックより3名が5種目に出場し、木村友香(2年)が1500mで2位、3000mで3位(日本人トップ)、由水沙季(1年)が800mで6位に入賞し、総合成績では短距離ブロックの福岡美和子(3年)が800mで5位、前川萌那(3年)が7種競技で7位の健闘もあり、総合の部・トラックの部ともに3位と、創部以来最高位の成績を収めました。選手一人ひとりのモチベーションの高さと日々

の努力が実を結んだ賜物であり、大収穫の大会となりました。この勢いは止まることなく、秋の国体、新人戦へと続きました。国体においては木村が少年女子A3000mで優勝、由水が少年女子B1500mで2位、福岡が少年女子共通800mで優勝と同一県だけでなく、同一校で上位を占めることは快挙といえます。また九州新人戦においても、双子の山下姉妹(1年)が800mで1位・2位と好成績を収め、今後の活躍が期待されます。

3年ぶり、 19回目の出場を 果たした 全国大会

そして10月30日に「女子第23回全国高等学校駅伝競走大会」の県予選大会が開催され、大会新記録で優勝を果たしました。5人中4人が区間賞をとる大健闘のレース展開で、「都大路」への切符を



▲駅伝全国大会の試合前に気合を入れるメンバーたち。

勝ち取りました。その県大会終了後、主将の佐々木伽歩(3年)が足を痛め、約1カ月間走れず、大会への出場が危ぶまれましたが、何とか復帰でき、ベストメンバーで12月24日の全国大会を迎えました。

5年ぶりに県大会を制し、3年ぶりに出場した「都大路」。全国の舞台に立つて走れる喜びと、全国でも優勝するという強い気持ちで臨んだ全国大会。選手たちは大会前までリラックスしておりましたが、

前日の練習、開会式と他校の選手の中に入るたびに緊張も増してきた感がありました。その緊張感を力に変えることができずに硬くなり、レースも「平常心」を失い本来の力を発揮することができませんでした。いくらか勢いがあり、力を持っていても本番で力を出すピークパフォーマンスができなければ勝てないと痛感し、全国大会の厳しさを知りました。振り返れば、勝

つための体力と練習と精神力の強化がまだまだ不足していたと思われま。結果1時間09分35秒の記録で第10位と大変悔しい結果に終わりました。この反省と悔しさと経験が、彼女たちをさらに成長させ、強い筑紫学園高校陸上部、第二期黄金期を築いていくものと確信しております。



▲駅伝全国大会でスタート直後、勢いよく先頭を引っ張る木村友香選手(ゼッケン40)。

を持ちながら多くの方に勇気と感動を与える走りができるよう頑張っていきたいと思えます。
【高等学校・陸上部監督／岩元雅輝】

中学・高校

「親鸞聖人750回大遠忌法要」および「洗心庵・待合・香風亭」認定プレート贈呈式、記念茶会を挙行了しました

2012(平成24)年1月16日に、親鸞聖人の750回忌をお迎えしました。西本願寺をはじめとして、全国の浄土真宗関係の組織や寺院で、法要がお勤めされました。

本学園中学・高等学校におきましても、50年に一度というご縁縁を、全生徒とともに挙行したいと願い、11月30日に「親鸞聖人750回大遠忌法要」をお勤めしました。

法要は、報恩講の歌、献花、献灯、献香に始まり、750回忌のために新たに制定された「宗祖讃仰作法」(音楽法要)をコーラス部の生徒の調声でお勤めしました。「宗祖讃仰作法」は「十二礼偈」の節の「正信偈」と新たに作曲された念仏・和讃、そして回向には「恩徳讃」の旧讃という構成で、生徒の評判も良く、講堂内に響き渡る美しい生徒たちの声印象的でした。

その後、校長、職員代表、生徒代表による焼香、聖句朗読と続き、今回はご法話に替えて、地元福岡で活動されている「劇団シヨーマンシップ」の皆さんに「親鸞聖人」を公演していただきました。これは、聖人の生涯を妻・恵信尼の視点で描いた作品で、法然聖人や村人たちとの出会いの中で、親鸞聖人開眼までの苦悩の時代から、教えが広まり根づいていくまでの姿が描かれています。親鸞聖人を演じられた仲谷一志さんをはじめ、劇団の方々の熱演は生徒たちに大きな感動を与えました。

また、法要の後には本校の茶室である「洗心庵待合・香風亭」が国の登録有形文化財の認定を受けたことに

合わせて、認定プレート贈呈式と記念の茶会が催されました。

今回本校でお勤めした法要は、特に盛大なものとは言えませんが、生徒たちにとって、自分が在校中に親鸞聖人の750回忌があったことが、一生涯心の中に残り続けることと思います。50年後には彼女たちは初老を迎えた年齢になります。この中の少なからずの卒業生が、次の800回大遠忌には、西本願寺や各地の寺院にお詣りするだろうと思います。中学・高校時代には、もしかすると縁遠く感じられたかもしれない積尊や親鸞聖人の教えを、将来は、身近で尊い教えとして受け止めてもらえるように願っています。今回の法要が、そのようなご縁の一つとなれば幸いです。

【高等学校教諭 戸田 証



▲コーラス部と生徒たちの歌声が、講堂に響き渡りました。

学園

「福岡県子育て応援宣言企業」および「子どもの村福岡」支援会員に登録

筑紫女学園は、福岡県が実施している「子育て応援宣言企業」に今年度から登録しています。この制度は「身につけた職業経験を中断することなく、子育てをしながら働き続けることができる社会の実現を目指して、経営トップ自らが従業員の仕事と子育てを応援することを宣言する制度」であり、

①育児休業に関する規程をイントラネットや例規集によりいつでも閲覧可能にします。

②産休・育休中の教職員に学園報を送付し、休業・休業中の不安をやわらげるようコミュニケーションを図ります。

③子の看護休暇を時間単位で認め、有給とします。

④ワークライフバランスの実現を目指し、有給休暇の取得を促進します。

の4項目を宣言の上、働きやすい職場環境づくりを目指しています。さらに本学園は「すべての子どもに愛ある家庭を」をスローガンとしている「子どもの村福岡」の支援会員にも登録しています。子どもにも登録しています。子どもにも登録しています。子どもにも登録しています。

また、2010年4月、日

本で初めての「SOS子どもの村」として、福岡市西区今津に5軒の家族の家と、子育て支援のセンターハウスをオープンしました。親の病気で虐待など、様々な理由で家族と暮らせなくなった子どもたちと育親(里親)とが、新しい家族の絆を結ぶために活動しています。筑紫女学園は、今後も様々な活動支援を通して、子どもたちの未来を応援していきます。



▲子どもの村福岡ホームページ <http://cv-f.org/>



▲福岡県子育て応援宣言ホームページ <https://k-sengen.pref.fukuoka.lg.jp/kiogyo-pr?com=3680>

大学・短期大学部

5回目となる「筑女フィル定期演奏会」今年度もアクロス福岡で開催

昨年12月25日、アクロス福岡シンフォニーホールにおいて、筑紫女学園大学フィルハーモニー管弦楽団(通称:筑女フィル)の定期演奏会を開催しました。

今回はさらなる飛躍を期して、各地のアマチュアオーケストラの指導でも定評のある村里修二氏を新たに指揮者にお迎えして、数々の難曲に挑戦しました。演奏曲目は、交響曲第二番(シベリウス)、絵のような風景(マスネ)、そして、エグモント序曲(ベートーヴェン)。どれも素晴らしい名曲ですが、演奏者にとっては今までにない難曲です。

部員たちにかかるプレッシャーは相当なものだったと思いますが、近隣諸大学のオーケストラのメンバーや、その他有志の方々のエキストラとしてのご協力もあり、何とか皆さまに楽しんでいただけるコンサートにすることができました。

歴史も浅く、まだまだ未熟なオーケストラですが、それだけに、温かく見守ってくださる聴衆の方々、少しずつ成長していく姿を見ていただけたのではないかと思います。一年に一回の定期演奏会ですが、ぜひまた来年も足をお運びしたいと思います。



▲学生たちの技量を向上させる大きな節目となりました。

「学ぶ」は一生の宝 生涯学習の ススメ



本学園大学で取り組む生涯学習プログラムをご紹介しますこのコーナー。今回は昨年から冬にかけて行われた2つの公開講座の模様をレポートします。

公開講座 レポート①

子どもの心と ウエルビーング(しあわせ)①

〜今どきの子どもはヘン?〜

発達障がい
を抱える子どもの
「本当のこと」が明確に

10月1日(土)、筑紫女学園大学短期大学部において、公開講座「子どもの心とウエルビーング(しあわせ)①」今どきの子どもはヘン?」が開催されました。講師は本学人間科学部人間科学科人間関係専攻の酒井均教授です。

本講座では主に、からだ、五感、脳、こころの4つの観点から、今どきの子どもについて酒井先生にお話しいただきました。

お話の中で、私がいま驚いたのは、今の子どもには感覚過敏または、鈍麻のせいで人にぶつかっても気づくことができなかつたり、少し当たっただけでも叩かれたと感じてしまう子どもが多くなってきたこと。このような症状は、今どきの子どもだけでなく、親にもあるということです。人と直接触れ合うという行為を幼い頃に経験していなかったため、他人に触れたり触られることが苦手となり、親になつて自分の子どもを抱くことが苦痛となる人さえいるという現実も、この講座

で初めて知りました。また、私たちが思う以上に発達障がいを抱える子どもが身の周りにたくさんいること、さらに発達障がいは狭や育て方の問題ではなく、子ども自身が生まれ持ったものであるとも話されました。だからといって、仕方ないで済まされる問題ではありません。そこから、発達障がいというものをきちんと正しく理解しようとする姿勢が大切であると私は学びました。

今の子どもたちは、からだ、五感、脳、こころなど、どこかに歪みや偏りがあることが多いようです。そのことについて子ども自身や、その子どもの親が困っていたとしたのなら、私たちは正しい知識の元に子どもに対する対応の仕方を考え、周りの環境などを調節していくことが大事であると思いました。

講義の中に出てくる具体例が身近のものであったため、参加者全員がすんなりと理解しやすい内容でした。この講座から学んだことを、将来、親になつたときやそれまでの過程で生かしていきたいです。

【天文学部】
日本語・日本文学科2年 宮田佳奈

公開講座 レポート②

今、求められる教育とは

〜小学校、就学前教育、家庭、地域の役割〜

幼稚園や保育所関係の方々に多数お集まりいただきました

11月5日(土)、筑紫女学園大学短期大学部では、公開シンポジウム「今、求められる教育とは〜小学校、就学前教育、家庭、地域の役割〜」を開催しました。本学には今年度、人間科

学部が開設され、その中の専攻のひとつ「人間形成専攻」では、子どもの保育と初等教育に貢献できる人の育成に取り組んでいます。そのような中、今回のシンポジウムでは、教育現場での幅広い経験を持つ本専攻所属教員が「保育者」「小学校教師」「小学校管理職」「筑紫女学園大学教員」という4つの立場から、それぞれが



公開シンポジウム 「今、求められる教育とは」概要

- シンポジウム・コーディネーター 板井 修一 (教授・人間科学部長)
- 話題提供・シンポジスト
 - ・乳幼児にたいせつに育てたいこと／大元千種(教授)
 - ・育てられて育つ子どもたち／稲田八穂(准教授)
 - ・小学校で求められている教師とは／手嶋俊明(教授)
 - ・21世紀が求める保育士や教師の像と
筑紫女学園大学の教育／牧野柱一(教授・専攻長)

大切にしたいと思っていること、これからの課題などを提案し、「今、求められる教育」について考えました。参加者は幼稚園・保育所関係の方が多く、家庭との関わりや幼少期の子どもへの育ちなどについて課題をもたれていることが分かりました。その他に、「発達障がい」についての質問や、我が子がいじめにあつた経験からの意見などもあり、大変有意義なシンポジウムとなりました。

【天学人間科学部】
人間科学科人間形成専攻/准教授
稲田八穂

法海

— 今回のテーマ —
現実を生きる人のための真宗とは

今回は本学人間科学部で講師を務める宇治和貴先生に、ご自身が感じていた「真宗への疑問」をどのように解決してこられたか、その過程についてご寄稿いただきました。

学生時代には 疑問だらけだった 「真宗」の存在意義

「浄土真宗での救いとは、死後に浄土へ往生することだけをいうのだろうか？」
 私は真宗を学び始めてすぐに、こうした疑問を持ちました。真宗での救いが死後だけならば、現実を生きる人にとって不必要な宗教となるのではないかと。人間は何もできない凡夫だからといって実践をあきらめるならば、他力とは人間の努力を認めない思想となるのではないかと。だとすれば、真宗は悩み苦しむ人々を支える宗教といえないのではないか。などの疑問が次から次に起り「このような宗教では、同世代の友だちに自信を持って話せない」といった思いを強くしました。学生当時、こう

「真宗の常識」とされたものが、勉強し直すことで覆され……

疑問だらけの学生時代の私に説明された真宗は、



▲仏教の授業「親鸞・人と思想Ⅱ」で熱心に学ぶ学生たち。

した疑問をもった理由は二つあるように思います。二つ目は、寺院に若い人が来ないとか、仏教に若い世代が興味をもたないといった現状を自らが成長する過程で経験してきたこと。そして二つ目は、私自身が現在の仏教を腐敗・墮落した葬式仏教そのものだと認識していたことでした。仏教へのこうした認識は、現在でも多くの若い世代の方には共通するものではないでしょうか。このような感覚は、職業として僧侶を選択し生活する中で、いつしか摩耗・消滅していくものかもしれません。

こうした疑問に答えてくれるようなものはありませんでした。なぜなら「どのよう生きるか」といった、生きる上での価値基準として真宗を説明する論理「『教学』が成立していなかったからです。そこで「親鸞」という人はどのような生き方が成立する宗教を浄土真宗として説いたのか」といった疑問を解決するため

に、真宗に基づく生き方「信仰を彼が生きた具体的な歴史状況と対比させながら考えてみることにしました。すると、親鸞が生まれるずっと以前から、称名念仏を称えれば悪人が阿弥陀仏によつて救われるといった思想はひろく民衆のレベルまで浸透していたことや、聖道門といわれる人たちも含めて仏教者全員が浄土を願っていたことなどを学びました。これまで親鸞の発見だと言われ、私自身もおぼろげにそうだろうと理解していたことが、ことごとく覆されました。それと同時に

に、親鸞は単に死後往生だけを救いとして説いたのではなく、人間の生き方・価値基準がその根底から変化させられ自己中心であるはずの人間が、慈悲を中心とした生き方を志すようになる宗教として真宗を説いていることを知りませんでした。

親鸞は真宗の教えに生きようとする人は凡夫だから何もできない存在だとは決して語っていません。むしろその反対に、世の中のあらゆる苦しみや悲しみを見過ごさないことを願う存在になると説いています。もちろん人間は自己中心な心をなくすことができない存在なので、完全ではないのですが、仏と同じような慈悲の実践を仏によつて与えられた心「信心」を根拠として志向し、実践しはじめ「しるし」があらわれると説いているのです。親鸞以前の仏教では、仏の慈悲を対照的に捉え都合よく救ってられる存在を阿弥陀仏と考えられる存在なのですが、親鸞は人間において慈悲の実践を志向させる「はたらき」として仏を理解したのです。すると、阿弥陀仏に帰依することで、仏の願いを自らの願いとした生き方が始まることとなります。このように親鸞が、真

宗を現実生きる人のための仏道として理解していたことを知った時、私は様々な疑問を解決する入り口のようにやうに立てた気がしました。
 真宗は今、冒頭に挙げたような疑問にどれだけ応えうる宗教となっているのでしょうか。原発の問題、靖国神社の問題、格差という差別の問題、貧困、自死の問題など、数えあげればきりがありません。多くの問題が山積しています。こうした課題に真宗者としてどのように向き合っていくかを真剣に考えなければ、真宗の未来はないといえるのは過言でしょうか。

今回の執筆者

筑紫女学園大学 人間科学部
 人間科学科 人間関係専攻 講師
宇治 和貴

主編著「地球と人間のつながり—仏教の共生観—」(法蔵館)「科学時代における人間と宗教」(法蔵館)。昨年、永田文昌堂より「真宗の歴史的研究」を刊行。真宗実践論が専門。



学園だより

大学・短期大学部

Contents

- TOPICS / 工場見学ツアーで職業観を養成
- PEOPLE / 学生アドバイザーの取り組み
- 就職の筑女 / JAくるめ(古賀彩さん) / 濱崎真実さん / 堀江裕子さんの巻



職業に対する意識を高める 「工場見学ツアー」に多くの学生が参加!

今年度は5社の協力を得て見学体験を実施しました

本学では、今年度から社会的・職業的自立に関する教育(キャリア教育)の一環として、福岡近郊に拠点を置き、グローバルに事業展開をされている様々な職種の工場へ見学ツアーを開催しています。昨年7・8月



▲古紙リサイクルを主事業とする(株)寺松商店を訪問した学生たち。現地での説得力ある説明に、自らの職業観を改めて見つめ直す良い機会になりました。

訪問では、株式会社山口油屋、福太郎株式会社西日本新聞社、久光製薬株式会社、株式会社筑水キヤニコム、株式会社寺松商店(敬称略)のご協力を得て、貴重な見学体験をさせていただきました。

働くとは? 社会に貢献するとは? 自己実現とは?... 生の職業現場を体験し、現場の方々と意見を交わすことで、頭で考えていたイメージとしての職業観が、リアルな職業観へと変化していきます。

見学前は事前研究として、企業に対する第一印象や、ホームページを見て抱いた疑問・興味などについてまとめ、見学後に解決した疑問・興味、深まった興味、企業の課題、社会へ貢献していること等をレポートとしてまとめ、グローバルな視点と、職業に対する意識を高めていきます。



参加学生からは、「ホームページやパンフレットを見るだけではなく、できる限りその会社に直接行き、雰囲気を感じて、自分に合っているかを判断する必要があると感じました」「現在はグローバルな時代で、語学ができる人材が足りないという現実も分かり、就職の視野が広がりました」「福利厚生がしっかりしていると言われていましたが、育児休暇などの取得率はどの程度なのか。また、全体に対する女性職員の割合はどの程度なのかを知りたかったという感想が寄せられ、進路を決める上で大きな刺激となり、具体的な職業観を養うきっかけとなったようです。

PeOple

キャンパスライフをサポートする SA(学生アドバイザー)たちの取り組み

学生アドバイザー(Student Advisor、以下SA)は、学科を問わず2~4年生の学生によって組織されています。現在所属しているのは20名で、広報班、相談班、イベント班、合宿研修班の4班に分かれて活動中です。主な活動としては、スチューデントルーム(SR)と呼ばれる自習教室の管理・運営を基盤として、それぞれの班の役割をこなしつつ、相談ノートによる問



接相談や、口頭で受ける直接相談も行っています。SR内では、自習以外にも文具の貸出を行ったり、コピー機、印刷機を利用することもできます。それらを利用される方々の手伝いはもちろん、快適に過ごせるような空間づくりにも努めています。また、「日経ネット」と呼ばれる壁新聞も作成し、その日のニュースをもとに分かりやすく作成・掲示することで、利用者の皆さんに今、社会で注目されている話題について知ってもらえるように努力しています。

今年度の夏休みには、楽山荘でメンバー合宿を行いました。合宿では、1分間の他己紹介をしたり、講師の方をお招きしてお話を聞いたり、それぞれのSAのスキルアップに繋が

る研修を行いました。また合宿では、SA内の交流を深めるためにバーベキューや花火をして、楽しい時間を過ごすことができました。限られた時間の中で「スキルアップの時間」と「交流の時間」のメリハリをつけ、合宿はとても充実したものになりました。

後期には、一大イベントとして「女性のためのマネーセミナー」を開催。生命保険会社の方をお招きして、年金や保険について楽しく、しっかりと学べるイベントになりました。今後も、学生の支えとなるように励み、次年度へと繋げていきたいと思っています。

【大学 日本語・日本文学科 3年 落合真梨】



▲夏休みに行われた合宿のひとつ。 (福岡市早良区にある本学園研修所「楽山荘」で実施)



▲(写真左から)平成21年卒の古賀さん、濱崎さん、そして平成22年卒の堀江さん。3人とも短期大学部現代教養学科を卒業。「アットホームな雰囲気の中で安心して仕事に向かっていきます」と口をそろえる。

就職の筑女

OGと上司に伺う「筑女生のこと」

久留米市農業協同組合
(JAくるめ)

VOL.
21

北部支店金融共済課 福祉課 東部営農センター
古賀 彩さん 濱崎 真実さん 堀江 裕子さん の巻

本学卒業生をご採用いただいている企業へ伺うこのコーナー。今回は、「こころ ふれ愛 With You」をキャッチフレーズに、様々な事業を展開する「久留米市農業協同組合」で活躍中のOG、古賀彩さん、濱崎真実さん、堀江裕子さん、そして上司の原泰博さんにお話を伺いました。

筑女のサポートに支えられ
地元で働くという夢が現実に

お客様の笑顔とご満足が
日々の原動力に

職場でも繋がっていく
筑女OGの絆

上司の方に
伺いました

筑女出身者は笑顔が明るく素直。
JAくるめの大切な戦力です

総務企画部総務課 原泰博さん

組合員をはじめ、地域住民の方々とともに、農業と久留米市の発展に資する様々な事業を展開するJAくるめでは、仕事の内容も多種多様です。「地元で働きたい」という想いは同じだったものの、現在、古賀さんは貯金の窓口を担当し、堀江さんは肥料や農薬を取り扱う窓口。濱崎さんはデイサービスを利用する方々のお世話をする毎日を送っています。

「福祉課に配属された当初は戸惑いましたが、『やるしかない』と覚悟を決め、ヘルパー2級の資格も取りました。『あなたの笑顔が見られて嬉しい』と言ってくださる利用者の方々のお役に立ちたくて、さらに勉強を重ねています」と濱崎さん。古賀さんは、「おすすめた商品にご満足いただき、貯金をしてくださったお客様から、逆にお礼を言われたりすることも。やりがいを感じます」と話してくれました。堀江さんも、「私の部署は農家の方のご利用が多く、皆さんが私の名前を覚えて親しく接してくださるんですよ」と嬉しそうに顔をほころばせます。

実は、JAくるめでは、現在12人もの筑女OGが働いています。「先輩が大勢いらつしゃると知り、採用試験を受ける際も心強く感じました。今では後輩もいて、よく筑女の話が話題になるんですよ」と古賀さん。また、就職活動については、「電話応対やビジネスマナーの講座などを受けましたが、もっと筑女のセミナーや研修を利用すればよかった。在学生にそのことを伝えたい」とも。濱崎さんと堀江さんは、「進路支援課の方に模擬面接を何度もお願いしたおかげで、本番では落ち着いて話すことができました」「礼儀や人との接し方など、社会人にとって大切なことを在学中に学ぶことができました」と当時を振り返ります。

そんな3人に後輩へのメッセージをとお願ひすると、「視野を広げることが大事。そうすれば新たな発見があるはず」「多くの人と接する機会を持つて、繋がりを広げてほしい」「自分をしっかり見つけてという答えが返ってきました。後輩を応援する熱い想いは卒業後何年経っても変わらないようです。JAくるめは、平成20年5月に支所再編を行い、新たなスタートを切りました。具体的には、管内を東西南北の4地区に再編したうえで、4カ所の総合支店と1カ所の金融支店に再編。支所の機能・職員を集中させて自己完結の大規模な支店を構築することにより、利用者サービスの向上と事業管理費の削減を目指しています。

また、農業従事者の高齢化や後継者不足を背景に正組合員はもとより、准組合員を増やすことも課題となってきました。そこで、JAくるめのファンづくりを図る施策の一環として、イベントの開催や地域イベントへの協賛など積極的に取り組んでいます。

こうした中、女性職員への期待がさらに膨らむようになってきました。組織再編に伴い、渉外担当者がお客様の自宅へ、より出向く体制になったのですが、女性ならではのきめ細かで丁寧な渉外対応が大変好評なのです。また、窓口セールスでも女性職員がおおいに活躍。組合員さんで組織する女性部の活動にも、生活指導員の女性のサポートが欠かせません。今後も女性職員が活躍する場は広がることでしょう。その一翼を担ってくれているのが12名の筑女OGです。



▲「やさしいひと声も安全安心に繋がる大事なサービス」と語る原さん。

今回の職場

- 組合名: 久留米市農業協同組合 (JAくるめ)
- 組合員数: 11,727人 (正会員5,329人・准会員6,398人)
- 出資金: 13億7,894万3,000円 (平成22年度末)
- 職員数: 422人 (平成23年3月31日現在)
- 平成23年度新卒者採用実績: 6名



学園だより

高校&中学

Contents

- TOPICS 1 / 中学音楽部、全国大会で2年連続銀賞受賞
- TOPICS 2 / 高校で「追夢(ツイム)講座」を実施
- PEOPLE / 仏教委員会、感謝日の献金活動
- がんばるクラブ / 高校陸上部(短距離)
- クラブ活動の成果 / 2011年8月〜12月

TOPICS 1

**中学音楽部、
「全日本合唱コンクール
全国大会」で2年連続銀賞受賞!**



私 たち中学音楽部は、昨年度に続き今年度も「第64回全日本合唱コンクール全国大会(10月30日/東京・府中の森芸術劇場に九州代表として出場し、銀賞を受賞しました。演奏曲は、スペイン、バスク地方の作曲家ハビエル・プスト作曲の「ZAI I X O I T E N」、鈴木輝昭作曲

の「火へのオード」から「花火ひろく」の2曲を選曲しました。1曲目は歌詞から解釈を深め、バスク語で生きたる希望を歌い、2曲目は生命を司るエレメントの一つである「火」を色彩豊かに表現できるように歌いました。本番では皆で歌える喜び、仲間の存在や絆を感じながら部員全員で想いを込めて歌い、大きな喜びと達成感を得ることができました。

毎 年高等学校では、2年生を対象に「追夢(ツイム)講座」と称して大学などの先生方による出張講義を実施しています。今年度は10月28日の5、6限目に行いました。九州大学をはじめとする県内の大学だけではなく、京都大学や早稲田大学など県外の難関大学からも先生方をお招きし、16講座を開講。生徒は進路に合わせて、これらの中から希望する講座を選び受講しました。

TOPICS 2

**京都大学や九州大学、
早稲田大学等から先生をお招きし、
「追夢講座(16講座)を実施**

に自分の夢を追い続け、その実現に向けて全力を尽くして欲しいと願っています。

【進路指導部長 小山博之】

生徒の声

**大学で学ぶための
高校での基礎の大事さが
分かりました**

経済学を相撲の話と結びつけることで分かりやすく講義してくださいました。様々な視点から分析することで解釈するということに経済学の面白さを感じました。

大学は専門的なことを学び、探究する所なので、基礎知識が身につけていることが重要であると分かりました。私たちが今学習している高校の勉強がどれだけ大事か分かったので、しっかり身につけていこうと思います。そして、海外と日本は密接に関係していて、私たちの生活にも様々な影響を及ぼすことが分かりました。もっと世界に目を向け、見聞を広めようと思えます。

【高校2年 阿部桃子 / 経済学講座(国際経済と大相撲の関係)に参加】

People

**仏教委員会では毎月の感謝日に
献金活動ががんばっています**

私たち仏教委員会は、自利利他の精神に基づき、感謝日や全学礼拝の日に献金活動(ターナ)を行っています。これは、国内外で起こっている災害や戦争、貧困などに苦しめられている人々を支援するためです。

活動の一環として、毎月の献金先を知らせるポスターを各教室に掲示しています。そのポスターを見ることで、世界の状況や東日本大震災の復興支援活動の途中経過などを知ることができます。ポスターを通して、私たちが住む世界で、今何が起きているかに気づき、私たちに何ができるのかを考えてもらえればと思っています。私たち自身、献金活動を通して、災害に苦しむ人々や貧困に苦しむ人々、戦争や紛争の被害にあっている人々に目を向けて、その人たちに少しでも役に立ちたいという思いを強くし、世界中で協力し合い生きていくことの大切さを知ることができました。

実際の献金先は、平成22年9月から平成23年2月までは、「国境なき医師団」、「KANK(国境なき子どもたち)」、「新燃岳噴火に関する災害の復興支援」など。3月以降は、何とかして遠く離れた東日本の復興に関わりたいと思い、この地震で親を亡くした子どもたちを支援する「あしなが育英会」、地震の影響で飼い主を失った動物たちを救護する団体、そして「浄土真宗本願寺派仙台別院」などに決めました。今後も積極的に広い視野を持って、全校生徒でもっと社会に貢献できるように取り組んでいきたいと思えます。

【高校3年 古庄薫】





がんばるクラブ

Vol.16

高校陸上部
(短距離)

それぞれの活動に充実した時を重ねる生徒たちのようすをお伝えするこのコーナー。今回は、全国大会で幾度も栄冠に輝く陸上部の短距離チームにおじゃましました。

個人の結果を全員の喜びに。 来シーズンも快走に自信あり!

「ザッザッザッ」と規則正しく土を蹴る凛とした姿は、まさにカモシカ。取材に訪れたグラウンドでは、部員が一同となってウォーミングアップを始めていました。「チームワークを大切にしています。短距離は自分の努力次第で力を伸ばせるところが魅力ですが、結果が出たら、みんなが自分のことのように喜んでくれるんです。同学年の横の絆も、先輩後輩の縦の絆も、どこにも負けません。それが強さに繋がっているんです」

そう話してくれた部長の堀田璃紗さんは、中学生の時に大会で見たレベルの高い筑女の走りに感動。筑女への進学を決めました。そして今、青木先生

の指導に改めて大きな信頼を寄せています。「いてくださるだけで良い方向に進んでいけるし、先生の一言で大切なことに気づかされ、ガラリと部の雰囲気が変わることも。何でも話せて、どんなことでも受け止めてくださる先生を尊敬しています」

入部当初は、部の雰囲気に圧倒され、「ついていけるだろうか」と思った堀田さんですが、「今は自分のために、してみんなのために自ら動きたいと思うようになった」とのこと。そんな変化は、きっと彼女だけではありません。「この冬、どこにも負けない練習で自分たちを追い込み、来シーズンも勝つ喜びをみんな味わいたい」。そう言って、堀田さんはみんなのもとへ駆け出して行きました。

DATA

部員構成 / 2年生 6人・1年生 9人

●主な大会成績 (平成23年度)

【インターハイ】	福嶋 美和子	800m	……	5位
	前川 萌那	七種競技	……	7位
【国民体育大会】	福嶋 美和子	800m	……	優勝
【日本ジュニア選手権】	福嶋 美和子	800m	……	3位
【インターハイ県大会・北九州大会】	…… 総合優勝			
【インターハイ総合】	…… 3位			

など

部員たちとの信頼関係を礎に、より高みへ

筑女から大学へ進み、卒業と同時に、母校の陸上部顧問の話をお引き受けしました。現在は部全体のチームワークと一人ひとりの心の成長を大切に、個々の目標に合わせて指導しています。部員たちを見てると、「これだけ良い子たちが、これだけ頑張っているのだから、何としても結果を出させてやりたいと思わずにはいられません。また、陸上を通して様々なことを学び、社会で役立つ人間に育ってほしいと願っています。」

顧問 / 青木 早穂子 先生



クラブ活動の THE RECORD OF OUR CLUBS' ACTIVITIES 成果

高等学校

- **茶道部**
全国総合文化祭開会式にて呈茶
- **ソフトテニス部**
【全九州新人・中部ブロック大会】 ● 9月17日・福岡県
個人戦 ベスト4 櫻田・川崎組
ベスト16 松藤・林組
● 9月18日・福岡県
団体戦 第3位
【全九州新人県予選】 ● 10月29日・福岡県
団体戦 (決戦リーグ戦) 本校 2 - 1 倉南
※準優勝 本校 6 - 3 中村
九州大会出場権獲得
● 11月 3日・福岡県
個人戦 ベスト16 櫻田・川崎組
- **生物部**
【第45回 福岡県高等学校生徒生物研究発表会地区大会】 ● 11月 6日・福岡県
優秀賞 ※県大会出場決定
「筑紫女学園短期大学部附属幼稚園、響流(こーる)の森の調査」
- **争曲部**
【第26回 福岡県高等学校総合文化祭 / 第14回 日本音楽部門福岡県大会】 ● 11月 3日・福岡県
優良賞

- **百人一首部**
【第16回 福岡県高等学校小倉百人一首かるた大会】 ● 10月23日・福岡県
有段者の部 1位 鶴田 紗恵
無段者の部 2位 井上 麻帆
【第1回 九州地区高等学校小倉百人一首かるた競技大会】 ● 10月29日・熊本県
準優勝 福岡Aチーム (8名中7名が本校より選出)
- **陸上部**
【国民体育大会】 ● 10月 7日~11日・山口県
少年女子共通・800m 1位 福嶋 美和子
少年女子A・3000m 1位 木村 友香
少年女子B・1500m 2位 由水 沙季
【全九州新人陸上競技大会】 ● 10月14日~16日・大分県
400m 5位 古賀 早貴
7位 堀田 璃紗
1600mR 5位 天本・堀田・中村・古賀
800m 1位 山下 希望
2位 山下 未来
3000m 2位 由水 沙季
【全国高等学校駅伝競走大会】 ● 10月30日・福岡県
県大会予選
1位 1時間8分21秒
1区 木村 友香 区間賞 2区 佐々木 伽歩
3区 山下 希望 区間賞 4区 園田 聖子 区間賞
5区 由水 沙季 区間賞
※全国大会出場(本誌5ページで紹介)

- **演劇部**
【第26回高文連 平成23年度福岡県高校総合文化祭・高校演劇大会】 ● 10月29日・30日・福岡県
福岡地区大会
創作脚本賞 末松 沙也加 「君がくれた光」
- **文芸部**
【第26回全国高等学校文芸コンクール】 ● 12月17日・東京都(表彰式)
文芸部誌部門
最優秀賞・文部科学大臣賞 『いさらみ』第53号
小説部門
優良賞 平 彩七 「星になる」
優良賞 高倉 未聖 「凱風快晴」
詩部門
優秀賞 黒田 麻優子 「あけほの十分」
優良賞 長 ナナ子 「混濁の日」
俳句部門
優良賞 黒田 麻優子 木枯らしに列車軋みて答へけり

中学校

- **音楽部**
【第78回NHK全国学校音楽コンクール】
福岡県コンクール 金賞 ● 8月 8日・福岡県
九州ブロックコンクール 銀賞 ● 8月24日・福岡県
【第66回九州合唱コンクール】
県予選 ● 8月 6日・福岡県
金賞・全日本合唱連盟理事長賞
本選 ● 9月10日・福岡県
金賞・宮崎市長賞
【第64回全日本合唱コンクール】 ● 10月30日・東京都
全国大会 銀賞

学園だより

News from Kindergarten/SNAP×SNAP/Cover Story

幼稚園

TOPICS

福岡市内の幼稚園で 唯一の保健室。 元気に身体測定

年少組の子どもたちも 入園半年で独り立ち

筑

女の幼稚園には福岡市内では唯一、幼稚園の保健室があります。幼稚園に保健室？と思われる方がほとんどだと思います。それもそのはず、全国的に見ても、まだまだ幼稚園の2・5%しか存在しません。そんな私たちの保健室では、毎日の怪我や病気の応急処置や内服管理、毎月の身体測定、子どもたちの健康状態の把握、保護者の方の相談等を行っています。

4月当初、入園してきたばかりの年少さん(3歳児)は、何もかもが不安で一杯。初めての身体測定のために保健室に移動するということだけで、ドキドキして泣く子もいます。担任の先生、他の先生も総出で泣いている子を抱っこし、子どもたちに声をかけながら誘導し、たまたま横道に脱線す

る子を列に戻し…と、ほんの10数メートル先の保健室がとても遠く感じられます。

そのような姿だった年少さんですが、半年経った10月の身体測定では、なんと、年少3クラスすべての子どもたちがキレイに列を作り、身体測定の際に自分で自分の名前を大きな声で言い、最後にはしっかりと「ありがとう」と挨拶までして教室に戻って行きました。つい

1カ月前の9月の身体測定までは、各クラスまだ1〜2人の子が洋服も脱ぎたがらず、先生に抱っこされてやっと身体測定をしていたのが嘘のような10月の測定でした。身体測定という、一場面か



▲身体測定でちょっと緊張ぎみの年少さんたち。

らだけ見ても、年少の子どもたちのこの半年の成長はとても素晴らしい、また、運動会を終え、何かクラスでの一体感が年少さんなりにできているようにも思えました。一人ひとりに成長、発達段階があり、みんなそれぞれのペースで一歩一歩成長していることを改めて実感できたひと時でした。明るく、くつたくなかない子どもたちの笑顔に毎日力をもらいながら、保健室から日々、子どもたちを見守っていきたいと思っています。

【養護教諭 石山恭子】

Contents

- TOPICS / 福岡市内の幼稚園で唯一の保健室で身体測定
- SNAP×SNAP / 2011年 冬編
- 表紙のこと / 響流の森と園児たち

ようちえん's SNAP×SNAP in Winter

10月28日「クッキング」

おあざんといっしょにスィートポテト作り(自分たちで育てたお芋です)

10月26日「こうのす山」

どんぐりひろい
こんなにも、みつけたよ!

11月16日「年少がけ遊び」

かけのすべり台のしいよ!

おいしく焼き上がりました

みじみ、みじみ！自分のほれたよ

表紙のこと

今回の表紙は、幼稚園の裏手にある遊歩道「響流(こーる)の森」で、園児の皆さんと先生方のコラボレーションによる撮影を行いました。撮影準備の間、園児たちは森の中を元気いっぱい駆け回っていましたが、撮影本番ではビシッとキメてくれました。みんないい顔しています!

The Letter from OG

卒業生からの手紙

3

筑女に通ったおかげで、のびのびと成長でき、感謝とともに強く明るく人生をドライブしています

中学／高校／短大OG フォート(西田)真知子

(精華会アメリカ支部長)

2年前に精華会アメリカ支部を立ちあげて

日 本を出て39年目。今は、アメリカシアトル郊外の自然の中、故郷にも似た四季折々の美しさを崇め愛で、ガーデニングに熱中。2年前にワシントン州立大学マスターガードナープログラムを受講、資格取得。自然な庭の手入れを通して、環境汚染から家族、ペット、ワイルドライフ保護をコミュニティに指導するボランティアに力を入れ、精華会アメリカ支部にもフォーカスしています。

私が精華会総会に出席したのは、卒業して31年が経っていた2001年でした。浦島花子になっていた私は、同窓生たちとの再会で忘れかけていた自分の原点に戻り、このアメリカに住む筑女のOGたちとも分かち合いたいと、2009年に精華会のご支援でアメリカ支部を立ち上げ、現在19名の会員が色々な州に散らばっています。昨秋にホノルルで催され

短大時代は団体ダンス部に所属。写真は学園祭でのひとコマ。



西田さんの思い出の1枚

た「第一回精華会アメリカ支部総会」は、日本からの精華会会員も一緒に、和気藹々と友情を育むグローバルな楽しい会となりました。

今後は、精華会アメリカ支部をもっと知ってもらえるルートを使い、徐々に筑女OGを見つけ故郷を離れて異国に住む同窓生の力になれるようなネットワークを作り、心の拠り所になればと考えています。アメリカにしながら、親子後も、故郷のような精華会の温かさが有難く、これすべて仏様のお導き。筑紫女学園の素晴らしさです！

子どもが生まれて気づいた筑女で学んだ仏教のありがたさ

父 の転勤で関西から福岡へ移り、中学、高校、短大英文科とずーっと筑女でした。私にとつての仏教は、級友たちと冗談を言いあつては笑いつけていた不謹慎な生徒だったゆえか、仏教の授業、行事、礼拝と、ただ義務的に受け入れてい

たように思います。そんな私が自然とお念仏を口ずさむようになったのは、産まれて間もない息子を抱え、5歳になる娘と一緒に、度々の夫の長期出張で家を守っていた頃だと思います。当時、東洋人は私人社会に住んでいましたが、冬は雪が深く、ドライブウェイの雪かきをしない車が出ない。雪に慣れない私は産後でもあり、この重労働に涙っぽくなっていました。が、いつの間にか近所のおじさんやお兄さんがきれいにしてくれていて、他にも色々な善意の人々のお蔭で生かされている自分があることに感謝。渡る世間に鬼はなしとはよく言つたものです。

還暦入りした今言えることは、人種、文化、歴史、言葉、宗教が違った様々な外国に移り住んで、郷に入つては郷に従え、オープンマインドであれば、人種を超え、人間レベルで良い友に巡り合え、グローバルに豊かで刺激ある人生が送れるということ。どんな事情があろうとも、自分の信じることはあきらめず、

常に意識しフォーカス。挫けることがあつても、焦らずロングタームで目標に向かって進むことで、必ず道は開かれ、貴方の輝く時が来ます！
筑紫女学園の仏教と規律ある特別な教育を受けたからこそ、また、女学園であることで、男性を意識することなく、冗談を飛ばしながら、のびのびと成長できたからこそ、可能性を信じ自分の思つたように人生をドライブでき、感謝のうちに強く明るく生きてこられたのだと思います。筑女生であつたことを誇りに思います！在校生の皆さん、人生を面白くするのもしないのも貴方次第です。人生短し、後悔を残さないよう、思いつき自分らしく生きてください！ Best wishes & love to Chikujoi!

Profile



フォート(にしだ)・まちこ ● 筑紫女学園中学校、高等学校、短期大学英文科卒(1970年)。外資系企業の秘書を経て1973年渡米。ダムエンジニアのご主人(アメリカ人)の仕事の関係で、シカゴやサンフランシスコなどアメリカ各地をはじめ、パキスタン、ヨルダンなどに移り住み、自身もマーケティングの仕事などに従事。2000年からシアトル在住。ライセンスを取って不動産業を営むほか、マスターガードナー、精華会アメリカ支部での活動などを楽しむ日々。

同窓会 NOW!

記念すべき「第1回精華会アメリカ支部総会」をハワイにて開催!

昨 年10月30日、ハワイホノルルプリンスホテルにて「第1回精華会アメリカ支部総会」が開催されました。

アメリカ支部の立ち上げにご尽力いただいたフォート真知子さんをはじめ、海外で暮らす皆様へ日本からの応援の気持ちで、第19回生の私たちも参加させて頂き、総勢18名が集まりました。当日受付では、今回お世話をして下さったハワイ在住の玲子サリバンさんが、参加者一人ひとりに美しいレイをかけて歓迎してくださり、和やかな雰囲気の中で会が始まりました。

アメリカ支部代表の挨拶、それぞれ3分間のスピーチ、その後はハワイアンダンスと、会は大いに盛り上がりました。中でも印象的だったのは、シカゴから来られた83歳の先輩。在学中のエピソードなど、かくしゃくと話されました。また、横浜の大学で教鞭を執られていて、たまたまハワイ滞在中の30代の方も出席され、老若の境目もなく、

楽しいひとときを過ごしました。

最後は校歌を全員で歌い、締めとなりましたが、ごたも仏教に基づく学園の教育や校風に対して、誇りと感謝を持っておられました。なにかせ広大なアメリカの地域性を思うと、このような素晴らしい精華会を行うには、大変なご苦労があつたと思います。

意義ある第1回アメリカ支部総会に参加させていただき、感謝しますとともに、支部の発展を心より願っております。

【第19回生 波多江真知子】



プレイバック「筑紫女学園 2011」

～本学園の“この1年”を振り返りました～

本学園の2011年1月から12月における特筆すべきトピックスをピックアップするコーナー。振り返ってみればこの1年も新たな試みや活躍した人々などをたくさんご紹介しました。

2月

- 2月19日(土) (短)

日本ビジネス実務学会九州・沖縄ブロック研究会の「学生プレゼンテーション大会予選」で、村田彩香さん(現代教養学科1年)が最優秀賞、水谷美咲さん(現代教養学科2年)が努力賞を獲得

3月

- 3月9日(水) (大)

西シドニー大学(オーストラリア)と交流協定を締結
- 3月12日(土) (学)

東日本大震災へのお見舞い及び学生、ご家族等の安否確認
- 3月15日(火) (大) (短) 学園報 No.74 p.9

国家資格や免許取得に係る実習やボランティア活動を支援する「実習支援センター」を開設
- 3月16日(水)～(幼) 学園報 No.74 p.6

卒園式、終園式、入園式で、募金活動を実施
- 3月18日(金)～(大) (短) 学園報 No.74 p.6

卒業・入学式の会場で、学生会CJBA聖歌隊に所属する学生たちが中心となって、東日本大震災の募金活動を実施
- 3月22日(火)～4月4日(月) (高) (中)

東日本大震災で被災された方々のため、生徒たちが街頭で募金活動 学園報 No.74 p.6

4月

- 4月1日(金) (学) (大)
 - 学園VI(ビジュアル・アイデンティティ)を制定
 - 公式Webサイトをリニューアル
 - 大学新学部「人間科学部」を開設
 - 人間科学部長に板井修一教授(写真)、学園評議員に假屋幸康大学・短期大学部事務長が就任
- 4月7日(木) (大) (短)

学生会本部主催の新入生歓迎イベント「サークルフェスタ」を開催
- 4月27日(水) (大) (短) 学園報 No.74 p.6

テレビ西日本が企画する「ひとつになろう日本 テレ西こどもえがおプロジェクト」を通じて、絵本や児童書など約1,000冊を寄贈

5月

- 5月9日(月) (大) (短) 学園報 No.74 p.9

卒業生・在学生の就職支援拠点「天神キャリアセンター」を開設
- 5月28日(土) (大)

平成23年度九州地区「五星奨-中国語コンテスト」で、古賀佳奈子さん(アジア文化学科4年)が第2位を受賞

6月

- 6月5日(日) (短)

「全国学生プレゼンテーション大会」で、村田彩香さん(現代教養学科2年)が「奨励賞」を受賞
- 6月7日(火) (高) (中)

感謝日に、平 孔龍教諭から被災地東北の現状とボランティア活動について報告
- 6月9日(木) (大) (短)

森 弘子客員教授による前期特別授業「太宰府の山をめぐる歴史と文化」を開催
- 6月29日(水) (大) (短) 学園報 No.75 p.9

新規事業「学生チャレンジプロジェクト」に3件採択
- 6月30日(木) (大) 学園報 No.75 p.9

文部科学省所管日本学生支援機構の「平成23年度 留学生交流支援制度(ショートステイ・ショートビジット)」(補助金)に、本学の海外研修プログラムが2件採択

7月

- 7月15日(金) (高) (中) 学園報 No.75 p.11

中学・高等学校敷地の北隅に位置する「洗心庵・待合・香風亭」が、国の登録有形文化財に認定
- 7月22日(金) (大) (短)

「はだしのゲン」の作者中沢啓治氏を招いて人権講演会を開催
- 7月28日(木)～8月10日(水) (高) 学園報 No.75 p.12

「日本の次世代リーダー養成塾」に木村美友さん(高校3年)、橋口凌子さん(高校2年)、甲斐千紘さん(高校2年)が参加

8月

- 8月7日(日) (高) (中) 学園報 No.75 p.14

親鸞聖人750回大遠忌法要、龍谷総合学園合同文化祭に職員・生徒69名が参加
- 8月9日(火) (大) (短) 学園報 No.75 p.9

「平成23年度基本理念と教育目標」発表会を開催
- 8月27日(土) (幼)

親子で竹の切り出しから始める「そうめん流し」を開催



10月30日(日) (中)

「第64回全日本合唱コンクール全国大会」で、中学音楽部が2年連続の銀賞を受賞
学園報 No.76 p.11



10月30日(日) (高)

「全国高校駅伝県予選大会」で、陸上部が大会新記録で5年ぶりに優勝。12月25日の全国大会(京都)に出場
学園報 No.76 p.5



11月22日(火) (学)

文化貢献事業として「バリ管弦楽団福岡公演」に特別協賛
学園報 No.75 裏表紙

11月25日(金) (大)

「平成23年度 留学生交流支援制度(ショートステイ・ショートビジット)」(補助金)に、本学の海外研修プログラムがさらに2件採択

11月30日(水) (高) (中)

親鸞聖人750回大遠忌法要「洗心庵・待合・香風亭」登録有形文化財認定プレート贈呈式・記念茶会を開催
学園報 No.76 p.6



12月

- 12月1日(木) (高) (中)

「なぜ女子校は女の子を伸ばすのか」講演会を開催
- 12月5日(月) (大) (短)

フィルハーモニー管弦楽団とソフトテニス部の2団体が学内外での活躍を認められ、紫友会奨励金を授与
- 12月16日(金) (中)

平成23年度弁論・コーラスコンクールを開催
- 12月17日(土) (幼)

枠でつく「餅つき」を親子で体験
- 12月24日(土) (大) (短) 学園報 No.76 p.6

筑紫女学園大学フィルハーモニー管弦楽団が、第5回定期演奏会を開催
- 12月25日(日) (高) 学園報 No.76 p.5

京都で開催された「女子第23回全国高等学校駅伝競走大会」で、高校陸上部が10位
- 12月27日(火) (大)

平成24年度教員採用試験(小・中・高)において、本学から14名(卒業生把握分含む)が合格。中でも難関の公立中学校・高校へ6名(2名期限付き)、私立中学校・高校へ1名が現役合格を果たし、公立小学校へも3名が現役合格

【凡例】(学)=学園 (大)=大学 (短)=短期大学部 (高)=高校 (中)=中学 (幼)=幼稚園 ※学園報掲載記事以外の情報は、筑紫女学園Webサイト(<http://www.chikushi.ac.jp>)より

お詫びと訂正

本誌前号(第75号)11ページでご紹介した洗心庵・待合・香風亭の登録有形文化財認定に関する記事で、書籍名に間違いがありましたので訂正いたします。

「福岡近代遺産」
「福岡の近代化遺産」
なお、同書は九州産業考古学会により編集され本学園大学の時里泰明教授は、今回該当した本学園中学・高等学校の茶室について執筆されています。

寄付

左記のとおりご寄付を頂きました。紙上、お礼とご報告をいたします。

学園奨学金
金 三〇〇,〇〇〇円 田中 利一様(退職記念)
金 三〇〇,〇〇〇円 原田 真 様(香典返し)
金 三〇〇,〇〇〇円 藤井 薫 様(香典返し)

● 寄贈
大学・短期大学部へ
筑紫女学園
大学後援会様
オニニング 3基
野外用テーブル 13台
野外用イス 52脚
(7号館1階食堂(PUM Cafe)テラス席)

筑紫女学園からのお知らせ

Information

理事会・評議員会
退任 (平成23年7月31日付)
評議員 原田 泰信 (逝去)
就任 (平成23年9月15日付)
評議員 浅田 淳一(大学教授)

おめでとうございます

● 平成23年秋の叙勲
瑞宝中綬章受章 名本 幹雄
(大学名誉教授元大学・短期大学学長)